

令和2年度 第1回教育課程編成委員会 議事録

日 時：令和2年8月27日(木) 19時00分～20時35分

場 所：熊本総合医療リハビリテーション学院1号館 会議室2

出席者：17名

〈学外委員〉7名

平田 好文（熊本託麻台リハビリテーション病院 理事長・病院長）

中島 雪彦（大阿蘇病院 リハビリテーション課 課長）

福田 靖子（合志第一病院 リハビリテーション科 科長）

今田 吉彦（熊本機能病院 総合リハビリテーション部 作業療法課 課長）

黒田 彰紀（熊本赤十字病院 腎臓内科部 臨床工学課 腎センター CE係長）

上野 敏輝（徳田義肢製作所 装具部 営業課 課長）

佐藤 友子（済生会熊本病院 救急総合診療センター 救急科 医長）

〈学内委員〉10名

須加原学院長、山本顧問、中原副学院長、坂崎教育部長、鬼塚事務部長

高木副教育部長兼作業療法学科学科長、本田副教育部長兼義肢装具学科学科長

池田理学療法学科学科長、藤井臨床工学学科学科長、後藤救急救命学科学科長

1. 開会

2. 学院長あいさつ

須加原学院長から委員会開会にあたり挨拶が行われた。併せて、今期新たに学外委員に就任した3名の紹介がなされた。

3. 議事録確認

須加原委員長より前回の議事録の確認が行われた。また、要約版の議事録については、後日ホームページにて公表することが確認された。

4. 議事

(1) 遠隔授業の取り組みについて（会議資料）

須加原委員長より、本日の会議の進め方について説明が行われた。

次に、学内委員から会議資料に基づき、遠隔授業の取り組みについて説明が行われた。

その後、各学科に分かれ分科会が開催され、分科会終了後には、全体会で分科会の報告がなされ意見交換が行われた。

各学科分科会及び全体会において学外委員より、以下のような意見が寄せられた。

- ・講義内容を伝授することは遠隔でも可能と考える。問題は実習である。現在、学生の患者さんへの対応について接遇指導しなければならない状況であり、それがさらにひどくならないか危惧するところである。卒業後、臨床に出た時、人を相手にする職業であることから目に見えない影響が出てくるのではないかと心配している。対面で会って会話をし、雰囲気全体を含めて相手を理解する力、察知する力、そこが育たないのではないかとということが将来的に心配しているところである。
- ・今のような新型コロナウイルス感染症感染拡大の状況では、学生の立場から見たときに、学校システムというのはどういう役割を持っているのかということについて幅広く考えておく必要がある。インターネットの技術を使うことでカバーできることは一生懸命やらないといけないが、それでちゃんとできたと思ひ込むことで、落とし穴に落ちるような危険がでてきてしまう気がして心配である。その辺のところを学生の視点に立って幅広く自分達の昔を振り返って考えないといけないなと思った。
- ・今まで自分が育ってきた期間に赤ん坊に触ったことがないという学生がたくさんいた。弟も妹もいとこもないという学生がいきなり小児科で赤ん坊に触ってごらんと言われても怖がって触れない。将来生きた相手の患者さんと対応していくことになる学生なので、生きている実物に触れるという経験はある程度は必要であり、どうしても医療従事者の教育には欠かせないと考える。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響で学生が実習に出られないことが不安である。授業で100回聞いていても、病院実習で患者をみて触ることの方がインパクトがあり、理解もよい。また、患者さんとの微妙な距離感、コミュニケーション能力、接遇など対面しないと学べないことは多い。臨床指導の現場ではそこも意識して指導している。実習に出られないことは、今は仕方のないことだが、新人として入職した場合、今までの新人と比べ、その経験の差をどれだけ埋められるのか心配である。
- ・学院にとって、臨床実習というのはかなり大きな教育要素である。実際に患者さんを見ると見ないでは大きな違いである。そこは今後の課題だと思う。
- ・遠隔授業では授業が一方通行になるのではないかと心配がある。
- ・遠隔授業では、使用する資料は事前に配布されていると思うが、画面共有で資料等を提示した際に大画面で見れば見やすいと思うが、スマートフォンでは小さすぎてどこを説明しているのか分かりづらいのではないか。
- ・今まで通りの講義に合わせてオンデマンドを併用していくことは授業の進め方や学生の習熟といった点で財産になると思われる。
- ・遠隔授業を行う際に、各学科間では異なる遠隔学習用のコンテンツを使っているようだが、学院で統一したほうが良いように思う。また、自宅にWi-Fi環境がない学生がいるが、学生の通信量を使って学習させているところには抵抗を感じるので、学院側で支援したほうが良いのではないか。
- ・医療人に限らず、オンラインでやっていると孤独感を感じる。コミュニケーション能力の上達のためにも、グループワークなどを利用したほうがよい。また、チームワークが医療でも必要であるため、グループワークはぜひ盛り込んでいただきたい。
- ・Zoomのようにリアルタイムで双方向通信ができるようなものと、オンデマンドと両方あったほうがよい。何度も見ることができる録画もよい。

- ・オンラインやオンデマンドの難しい環境の中で先生方の取り組みを聞いて大変だと実感した。ただ、学生さんをできるだけ孤独にしないように気にかけていただきたい。できれば現場での雰囲気というものを感じていただければ一番いいかなと思う。
- ・義肢装具学科の場合、実際に遠隔授業で実技をする際に、実際に製作することは難しいので、作られたもの(義足部品)を組み立て、装着というような適合について、切断者に装着させたところを見せながら、カメラで実演をして理解をさせていくという手法があるが、それは義足であるからできることであって、いろいろな装具では厳しいのではないかと思われる。しかし、学生にリモートで出来る状況を作っておくのは非常に大事なことではないかと思う。こういうことをしっかりとやっておかないと、就職して現場に出たときにレベル的に差がついてしまうので、その辺りはしっかりと考えていかなければいけないところだ。
- ・臨床における採型等の患者対応は、学内での実習にて学生同士で行っているのとは大きく違う。麻痺肢の採型であったり、変形に対しての矯正しながらの採型であったり、技術が求められるところであるが、現状では経験させてあげることは難しい。
- ・救急救命学科のシミュレーション実習については、1日2症例くらいにして、手技の細かい修正はその場で対面で教員が教授する。そして全体の流れは全員に対して遠隔で、動画を流しながらフィードバックするというのが今考えられる方法ではないだろうか。
- ・救急医が実際にシミュレーション実習で隊活動しているところを、遠隔で見てフィードバックするというのは、学生たちにとっては非常に貴重な経験となるので、ぜひ継続してほしいと思っている。
- ・シミュレーション実習時に、来校して1チームか2チームを見るとして、状況付与から隊活動の内容、医師からのフィードバックまでを撮影しながら、他の学生もオンタイムで見る。そして、最終評価をするということであれば、シミュレーション実習は遠隔でも可能ではないだろうか。その時来ている人たちの安全対策については十分考える必要がある。
- ・外傷初療のデモなどは、動画で流せばいいと考えるので、状況評価の仕方や初期評価の仕方についても同様に動画を使えば、オンラインも可能だろう。小児外傷の活動については、教授方法をオンラインにしようとして資料作成中なのだが、感想として教えやすくなると感じている。例えば、状況評価について授業するときスライドだけを使用していたが、途中で動画を挟んで説明できる。また、シミュレーションについてもシナリオの想定付与も動画を使ってできるので、わかりやすくなると感じている。実際に人に触れないと取れない情報などは動画では無理なところなので、あとはいかに臨場感を出すか、動画では伝わりにくい情報を伝える工夫については課題であろう。動画の選択によっては、学びが深まる可能性もあると考える。
- ・オンラインでの授業では、M o o d l eを使うことで、自分が今まで積み上げてきたものをオンラインで信認できるメリットがある。また、自分が納得いくまで何度でもオンデマンドで講義を聞けるというメリットもある。オンラインのいいところを十分に活かせる時代に生きていると思う。そこを十分に教授しながら、医師も看護師も人と接する仕事なので、人との接し方やその臨場感というものを、安全策を講じながらきちんと実習を行うということが、だんだんできるようになってきているところなので、なんとか実習で人の温もりやチームワークというものを感じるような方法を模索する時期なのかなと感じた。

- ・実習不足の卒業生が就職してきた場合、病院での新人教育を変えなければいけないと思っている。以前は入職したらすぐ期待する仕事ができていたが、今後はある程度の期間をとって教育する必要がある。こちらもそれを念頭に採用していく。
- ・実技の面では、実際の患者さんに触れて、話してみてもコミュニケーションを取るというところから学ぶ部分がどうしても現状の遠隔教育方法では難しいのかなと思う。そういうところが危惧される。私の病院に新人を迎えたときに、実習経験の無い新人の教育というものを、私達現場サイドで計画しないとイケない時代が来るのかなと思う。現場にとっても課題である。
- ・学生さんには、将来就職してから学会発表などでスライドを作成する必要もあるのでパソコンはぜひ用意してもらいたい。
- ・新型コロナウイルス感染症という思ってもいないような事態になったということで、どんな職種であろうが、これがひとつの経験となって、今後いろんな災害がでてくると思うが、そのときの大きな経験知となってすぐに対応できるようになれば、慌てずに乗り切れるのかなと思う。
- ・作業療法士はコミュニケーションや対人交流を学んでいくことは大変重要である。
- ・濃厚接触者は一斉に自宅待機になるため、昼食時と更衣室ではできるだけ互いに話さないように、話す際には必ずマスクを着用するように指示している。マスクをしていると濃厚接触にはならない。学校の中でクラスターを作らないような対策をしておいたほうがよい。
- ・リモートでの授業を先生方が色々と考え苦勞されていると思う。自分たちが学生だった頃に、こういう授業が楽しかったということがあったと思う。そういうことが今の学生たちにはできていない状況なので、どうにかしてその楽しい授業を経験させてあげたいと思う。このコロナという時代には、学生さんたちは今すごく不安だと思うので、難しいとは思いますが、その辺を解消できるように学院の先生達にもう少し工夫して取り組んでいただければいいなと思う。

5. その他

特になし

6. 閉会